

売れゆき激減 で減税を陳情

大口市鮮魚商組合

水俣市と隣り合わせの鹿児島県大

口市は水俣病騒動のあおりで昨年の秋から魚類の売れゆきがめつき、減ったが、最近また同市や周辺で発生したネコの奇病に災いされ、売れゆきはカタ減りしてしまった。これでは立ちゆかぬと大

口、伊佐地区鮮魚商組合（加盟店五十三店）は税務署や県庁に減税を陳情している。

同組合の調査によると同市内では組合外の持ち込みを加えこれまで年間平均五千万円の魚介類

を売り上げていたが、水俣病発生の騒ぎ以来売れゆきは一年間で三分の一以下に減り生活に困るものが続出し転廃業者も出ているという。